
多重の世界を渡るもの

Aisest

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

多重の世界を渡るもの

【Nコード】

N3904C

【作者名】

A i s e s t

【あらすじ】

今、私達が生活している世界はたった一つの世界ではない。あなたが読む小説も、漫画も、実在する世界なのだ。それぞれの世界は他の世界と関係することはない。互いの存在を知らぬまま、世界は均衡を保っている。主人公である少女はそのような世界を渡り歩き、世界の均衡を崩そうと目論む勢力から世界を守ることを使命としている。これは、世界の狭間で翻弄される少女の奮闘記である。

story:0 表明されない懺悔

暗闇の中に浮かぶ顔を見て、心臓がはちきれそうな程激しく鳴り続けた。

「お前が均衡を崩したのだ。」

次々に現れる顔が声をそろえて言う。

「お前が新たな世界を生み出したのだ。」

全て知った顔だが生気のない表情で、白目を開けて囁く。

「お前が私たちを殺したのだ。」

私に何をさせたいのか。私は何をすべきなのか。

がむしゃらにやってきたら、後に残ったのは少しずつ蝕まれていく世界。

平穏な生活を壊し、自分の都合のいいように世界をかき乱していた。

それが必要なことだと自分に言い聞かせて、今日まで生きてきた。

否定はしない。私の存在が世界の均衡を崩したのだと。

謝罪はできない。私は自分の信念の元に行ってきたのだから。

だけど信じて欲しかった。

共に過ごしたあの日々、私は心の底から笑っていたのだと。

皆のことが、大好きだったのだと。

許さなくていい。

でも、信じて欲しかった。

暗闇の中に浮かぶ顔を見て、心臓がはちきれそうな程激しく鳴り続けた。

「お前が均衡を崩したのだ。」

次々に現れる顔が声をそろえて言う。

「お前が新たな世界を生み出したのだ。」

全て知った顔だが生気のない表情で、白目を開けて囁く。

「お前が私たちを殺したのだ。」

目を閉じて、唇を震わせて、こう答える。

「そう、私が殺したのだ。」

と…。

涙を流すことなく、謝罪の意を示すことなく、ただ、認めるだけでよい。

s t o r y : 0 表明されない懺悔（後書き）

まだストーリーに入っていませんが、今後話が進むにつれ重要になる主人公の心の中の想いをプロローグとして載せました。

story:1 旅立ち

何も特別な能力などを備えていたわけではない。私はごく普通の中学生だった。それでもいつの間にかこうやって私は動いていた。「世界の平和」を守るために。

カツカツと薄暗い廊下を早足で通り抜ける。最近気になるほどに長くなった前髪がうっとうしい。顔をしかめながら前方に現れたドアを乱暴に開ける。

「お、おはよ…。」

「おはよう。」

もう太陽はとつくに空高くに昇っているけどね、という皮肉をすんでの所で呑み込み、ぶっきらぼうながらも挨拶を返す。そう、この教室に居る連中に罪はない。

小さな自分の机に近寄り、山のように詰まれた書類のてっぺんに無造作に置かれた紙をつまんだ。昨夜、眠い目を擦りながらも書き上げた書類だ。それを持って机の間を抜け、この教室で一番大きい机に座る人間の目の前に仁王立ちになる。

「よお。お帰り。」

一番大きな机に座っているからといって、この目の前の人物が一番偉いわけではない。ここではほとんど皆平等である。実際、この大きな机に座る権利は1ヶ月に1回程度回ってくる。当番制の上司なのだ。

「ただいま。そして行つてきます。」

無然とした声でつまんだ書類を相手の目の前でちらつかせる。昨夜書き上げた書類は派遣申請書である。

「…相変わらず忙しいヤツだな。」

あきれたように呟きながらも、上司（仮）はさっきまで向かい合

つっていた書類を横に置いて私の書類に判を押してくれた。

「どうも。」

軽く礼を言つて、すぐに先ほどぐつたこの教室唯一のドアに向かう。他の、同じく机に向かつて色々と事務処理に励んでいる同僚達の視線が私に集まるのが感じられるが、それにいちいち構う余裕が今回はない。欠伸をかみ殺しながらも背筋を伸ばしてドアを開けた。

「昨日まで行つてた件に関する報告書、今回は俺が片付けといてやる。」

背後から聞こえたぶつきらばうな台詞に、私は右手を軽く上げて感謝の意を示した。

出かける前にシャワーでも浴びようと一旦自室に戻ることにした私は、途中で同僚の一人と廊下ですれ違った。浅い傷と痣だらけの腕に私は苦笑しながら口を開く。

「また派手にやったのか？」

「ぶっ続けで3時間もだ！信じられるかい？」

普段は物静かな彼が珍しく大声を出す。私もそれに答えようと神妙な顔をして言った。

「まあ殴られても平然としてられるのは我らが隊長だけだろうけどね、せめて後輩達には生傷見せないように努力すべきだと思う……あなたには無理だけど。」

後半はこつそりと呟くことにした。聞こえていたみたいだが。

「何さりげなく断言してるの。余計なお世話！それにしても、今帰り？今回も長かったね。」

「帰つたのは昨日。そんでまた今日出かけるの。」

さらりと私が言つと、目の前の彼は両手を上げて大げさに天を仰いだ。

「我らが魔女は自己を犠牲にして世界の安定を保っていらつしやる……いい加減少しは休みなよ。だいたい最近はここよりも派遣地に

居ることの方が長いじゃないか。」

「そうしたいとただけだね。生憎、皆が私の助けを待っているのよ！」

「何の真似、それ…？」

ポーズ付きで言うのと冷静なツツコミが帰ってきた。

「ま、そんなわけですぐ出かけるから…。たぶん他の連中には挨拶できないだろうから、よろしく言っというて。」

「了解。気をつけてね。」

「はいはい。」

小さく手を振って私は久しぶりに会う同僚と別れた。

本格的な仕事が始まる前に、少々の説明が必要であろう。そこでこの場で主人公「私」について、そして彼女の仕事「世界の平和を守る」とは一体何のことなのか、について簡単な解説をする。

主人公の「私」は名前を和泉巴^{いずみとま}という。現在17歳。ごく普通の学生である。いや、ごく普通の学生であつた、というのが正しい表現であろう。親の仕事の都合で幼い頃から引越しを繰り返し、中学一年生の時にアメリカへ渡つた。

ニューヨーク近郊の、日本人ばかりが集まつた学校に通つて3年目の春に、巴の世界は一変した。学校の体制が変わり、その生徒達は「世界」を監視し、安定させるといふ使命を帯びた「調整人^{バランス}」となつた。学年はそのまま、教師もそのまま、一見普通の学校であるが、内部で行われていることは普通ではない。

普通の勉強と同時に、特殊技能・運動能力を限界以上に引き伸ばすために様々な措置がなされた。物語の中でしかありえないような剣術を習つたり、魔法を使つたりもする。そんな馬鹿な、と思うのは皆同じで、巴達自身も最初は半信半疑であつた。それでも今は各々の仕事を理解し、与えられた任務をこなすために日々訓練を行っている。

世界を渡る役を負った人間、学校で事務処理を行う人間と役割が分担され、その中心は当時の最高学年であった巴やその同級生達である。巴の仕事は、世界を渡り歩き、各世界の綻びを修繕すること。何故、急に世界の平和を守るといふ機関が生まれたのか。何故、巴達の学校が選ばれたのか。細かいこと物語が進むにつれは追々明らかになるであらう。

そのようなわけで、今日も巴は世界を移動することになったわけである。話を戻すしよう。

雲一つない青空の下に広がる青々とした芝生を見つめて、私は目を細めた。

「もたもたしないで。私の計画ではこの仕事を3日で終わらせて、中間テスト一週間前に帰ってくるつもりなんだから。」

芝生に細いロープを張っている人物にそう言った所、相手は立ち上がりながら無言で私のほうを睨んだ。…どうやら準備はできたようである。

「その計画ですけれどね、絶対無理だと思いますよ。」

眼鏡を押し上げつつ一つ下の後輩ははっきりと言った。

「何だよ。」

「だって和泉さん、ここ2、3回ともにテスト受けてないじゃないですか。今更テストなんて大人しく受けるはずが…あたっ。」

最後まで言わずに軽く後輩の頭を叩いた。まことに最もな指摘であるため、反論できない自分が腹立たしい。

「もういい。行くからね。」

黒く長いコートを翻しつつさっきから張っていたロープの囲いの中に立つ。ここが俗に言う「ワープゾーン」である。世界と世界をつなぐ入り口を一時的に作るための場だ。

「どうぞお気をつけて。」

後輩に微笑みかけた瞬間、目の前が白い光でいっぱいになり、私

は飛んだ。

s t o r y : 1 旅立ち（後書き）

旅立ちますが、任地はどのような世界なのやら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3904c/>

多重の世界を渡るもの

2010年10月10日23時54分発行